

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-14-07
事務事業名	クリーンセンター備前維持管理事業		
事業開始年度	平成10年度～		
総合計画	大項目 基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合せ先 担当課(室) 環境課 職・氏名 衛生係長・森本和成 電話 64-1821
	中項目 基本施策	生活しやすいまちづくり	
	小項目 施策	ごみ処理	
	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	燃えるごみ(一般廃棄物)の処理を必要とする、備前地域の市民・市内事業者
目的(何のために)	燃えるごみ(一般廃棄物)について、ダイオキシン類・ばい煙等を排出基準以下で適正かつ効率的に焼却することにより、生活環境の保全につなげる。
行政活動(どのような方法で)	適正かつ効率的に焼却するために施設の維持管理を行う。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	燃えるごみ(一般廃棄物)について、ダイオキシン類・ばい煙等を排出基準以下で適正かつ効率的に焼却する。

事業の実績					
活動実績	実施項目				
	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	ごみ焼却処理量	t	7,443	7,406	7,359
	焼却灰発生量	t	968	923	863
	稼働日数	日	253	230	243
	改修工事費	千円	68,250	33,537	22,890
	直接事業費	千円	124,945	85,293	67,266
	人件費	千円	31,473	26,535	26,081
	事業費計	千円	156,418	111,828	93,347
	国県支出金	千円			
受益者負担	千円	25881	53288	43153	
市一般財源	千円	130,537	58,540	50,194	
必要人員	人	5.20	4.05	3.53	
結果指標	結果指標名				
	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	ごみ焼却処理量	説明	1年間のごみ焼却量		
	結果指標量	t	7,443	7,406	7,359
	対前年比	%	-	99.5%	99.4%
活動コスト	円	156,132,000	111,621,000	93,120,000	
単位当たりコスト	円	20,977	15,072	12,654	
結果指標	稼働日数	説明	1年間の稼働日数		
	結果指標量	日	253	230	243
	対前年比	%	-	90.9%	105.7%
	活動コスト	円	156,132,000	111,621,000	93,120,000
	単位当たりコスト	円	617,123	485,309	383,210

事業の成果			
成果指標名	1日当たりのごみ焼却処理量	式又は説明	年間ごみ焼却処理量 / 稼働日数
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	29.4	32.2	30.3
対前年比		109.45%	94.05%
到達目標値	25	到達目標年度	平成25年度

事業の目的、対象、内容を考えて目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	A
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	関係法令等に基づき適正で効率的な焼却作業に努めている。県のごみ処理広域化計画が、現在、進行中であり将来的には、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町のごみを焼却する新しい施設が建設予定である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
対象	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
コスト	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
効率性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
職	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	課題認識	ごみ焼却施設のクリーンセンター備前は施設の耐用年数が約15年であるが、稼働から10年を経過しており、修繕工事等に係る維持管理費用は莫大である。平成20年度より、ごみ集積所による古紙回収を実施し、リサイクルの推進を行うことにより、可燃物の減量を図る。
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する		
	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成20年度の状況		説明	ごみ処理の有料化以降、ごみの焼却量は減少している。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 7,300	結果指標量	29
成果指標量			

総合評価		評価区分<A-E>	B
ごみ焼却量の減量は、焼却炉の延命だけでなく、焼却のための燃料、薬剤等の減量につながり、費用削減にも有効である。既存の資源物回収(古紙類、ペットボトル)、ビン類のコンテナ回収の充実、及び各地区における自主的な資源ごみ回収活動の支援等ごみの資源化によるごみの排出抑制を行う。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	焼却施設の計画的な維持補修	毎年度	施設維持管理費のコスト削減
有効性	資源ごみ回収の充実	毎年度	家庭ごみの排出抑制、資源物のリサイクル
有効性	ごみ集積所による古紙回収の開始	平成20年度～	可燃ごみの減量化・資源化